

- 1 題材名 ようすをおもいうかべよう
 教材名 鑑賞「おどるこねこ」(アンダソン作曲)
 表現「ひのまる」(高野辰之作詞 岡野貞一作曲)「はるなつあきふゆ」(三浦真理作詞・作曲)

2 題材について

本題材は、音楽を聴いて場面の様子を想像しながら楽曲の気分を感じ取ったり、音楽に合わせて体を動かしたりする活動を通して、鑑賞する楽しさを味わう。また、歌詞の表す様子や気持ちを想像し、思いをもって表現豊かに歌うことに焦点を当てた学習を進めていく。

児童はこれまで、音楽の時間や、朝や帰りの会でさまざまな歌に親しみ、自分の歌声に気を付けて、美しい発音で歌えるようにしてきた。「うみ」の学習では、どんな感じに歌いたいか、曲の盛り上がるころはどこなのかを考えながら歌う活動をした。自分の思いを言葉で表すことがまだ難しい児童が多いため、本題材では曲の雰囲気を表す言葉をたくさん提示することや、曲の雰囲気に合わせて体を動かす活動することなどを通して、楽曲の気分を感じ取ったり、思いをもったりすることにつなげていくことが大切だと考える。

鑑賞の活動では、楽曲を全体にわたって感じ取る能力、楽曲の構造を理解して聴く能力、楽曲の特徴や演奏のよさを理解する能力を育てることが大切になる。音楽に合わせて体を動かす活動や、楽曲の雰囲気を言葉で表す活動を通して、楽曲の気分や楽しさを感じ取ることができるようにしていきたい。

鑑賞の活動で楽曲の雰囲気を言葉や体で表現したことを生かして、歌唱表現を工夫することにつなげていく。低学年の児童は歌うことが好きで、歌詞の表す情景や場面を想像して楽しんだり、登場人物や動物になりきって歌ったりする姿が多い。歌うことを楽しむだけでなく、歌詞の内容や、音楽を形づくっている要素の働きを感じ取って、それを基に歌唱の表現を工夫し、思いをもって歌えるようにしていきたい。

そして、本題材で学習したことは、2年生の題材「ようすをおもいうかべよう」につなげていき、中学年では、「せんりつのとくちょうを感じ取ろう」、高学年では「曲想を味わおう」の題材につながる。中学年では、歌詞の意味や内容、曲想にふさわしい表現の工夫をすること、高学年では歌詞の内容や曲想を生かしたり、音楽を形づくっている要素やその働きを鋭く感じ取ったりしながら、思いや意図をもって表現を工夫することが求められている。

中学校では、「心の歌」の題材で、歌詞の内容や曲想にふさわしい表現を工夫したり、「混声合唱の楽しみ・響き」の題材では、音楽を形づくっている要素の働きを感じ取り、表現を工夫したりすることが求められる。中学校の第1学年では、「歌詞の内容や曲想を感じ取り」「表現を工夫して歌う」ことをねらいとしていることに対し、第2学年、第3学年では、「歌詞の内容や曲想を味わって」「曲にふさわしい表現を工夫して歌う」ことをねらいとしている。これは、楽曲から感じ取ったことを自らの価値判断で確認し、それぞれの曲のイメージにふさわしい表現を工夫し、思いや意図をもって表現することが求められているということで、本題材で最終的に求められている力といえる。

そのため、本題材では楽曲の雰囲気を感じ取り、それらの雰囲気が音楽を形づくっている要素とどのようにかかわっているかを確認すること、歌詞の内容からイメージを明確なものにし、音楽を形づくっている要素と関連付けながら表現を工夫すること、などを大切にし、楽曲を味わうことや、思いや意図をもって表現することの基礎を作ることをねらいとしたい。

3 題材の目標

- 楽曲の気分を感じ取りながら、想像豊かに聴いたり思いをもって表現したりする。
- 歌詞の表す様子や気持ちを想像して、楽曲の気分合った表現を工夫して歌う。

4 研究の視点について

【視点3】「音楽を形づくっている要素」を支えとして思考・判断・表現力を育てる授業改善

本題材では、楽曲の雰囲気や歌詞と、音楽を形づくっている要素を結びつけて表現できるようにするため、まず、楽曲の雰囲気を言葉で表すことができるようにしていきたいと考えている。まだ語彙も少なく、言葉の表す意味を理解しきれていない児童も多いため、いろいろな雰囲気音楽を聴かせ、音楽の雰囲気を表す言葉を共有し、掲示していく。そうすることで、音楽の雰囲気を表す言葉の引き出しを増やしたり、言葉と音楽の雰囲気を結び付けたりすることができるのではないかと考える。そうすることにより、歌詞が表わすイメージ

を具体的に言葉で表して共有し、発音や声の出し方などの歌い方を工夫することにつながるのではないかと考える。

また、音楽の雰囲気を感じ取る活動をするときは、「こう感じたのは、強弱が〇〇だから、音色が〇〇だから」など、その都度音楽を形づくっている要素に関連付けていきたい。そうすることにより、表現活動のときに、漠然と表現するのではなく、「このような雰囲気を出したいから強弱をこうしたい、速度をこうしたい」と、思いや意図をもって表現を工夫することにつながるのではないかと考える。

5 題材の指導計画（7時間）

次	時	○学習内容・主な学習活動	評価規準<評価方法>
1次		ねらい 場面の様子を思い浮かべながら「おどるこねこ」を聴き、楽曲の気分を楽しんだり、変化を感じ取ったりする。	
	1	○猫の様子を思い浮かべながら、楽曲全体の気分を楽しむ。 ・どんな動物が登場するのか想像しながら、音色や旋律に気を付けて聴く。 ・猫の鳴き声を表しているところを探し、猫のまねをしながら聴く。	・想像したことや感じ取ったことを言葉や体を使って表すなどして、楽曲や演奏の楽しさに気付いて聴く学習に進んで取り組もうとしている。（関心・意欲・態度①）<行動観察・発言内容>
	2	○場面の様子を思い浮かべて、楽曲の気分の変化を感じ取って聴く。 ・体を動かしながら聴き、曲の雰囲気が変わるところを探し、それぞれの部分がどのような雰囲気なのか考える。 ・それぞれの部分がどんな雰囲気なのか、どうしてそのような雰囲気に聴こえるのかを考える。	・想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲の楽しさや演奏のよさに気付いて聴いている。（鑑賞の能力①）<行動観察・ワークシート>
2次		ねらい 旋律や拍の流れに気を付けて、「ひのまる」をのびのびと歌う。	
	1	○旋律の特徴を感じ取って歌う。 ・国旗について、自由に話し合う。 ・歌詞の表す様子や気持ちを想像する。 ・範唱を聴いたり、互いの声を聴き合ったりして歌う。	・歌詞の表す様子や気持ちを想像しながら歌う学習に進んで取り組もうとしている。（関心・意欲・態度②）<行動観察・演奏聴取>
	2	○旋律や拍の流れに気を付けて、のびのびとした声で歌う。 ・階名や「ラララ」などで模唱する。 ・リズムボックスを流し、拍の流れに乗って歌う。 ・自分の歌声に気を付けながら、歌詞の様子や気持ちを考えて歌う。	・旋律のまとまりや拍の流れを感じ取りながら、正しい音程やリズムで歌っている。（音楽表現の技能①）<行動観察・演奏聴取>
3次		ねらい 歌詞の表す様子や気持ちを想像し、表現の仕方を工夫して表情豊かに「はるなつあきふゆ」を歌う。	
	1	○歌詞の表す様子や気持ちを想像する。 ・範唱を聴き、曲の雰囲気をつかみながら模唱する。 ・歌詞を音読し、どのような場面なのか想像する。 ・それぞれの季節を、どのような感じで歌いたいのか、その雰囲気を表すために速度と強弱をどのように工夫するかを考える。 ・自分なりに考えた表現で歌う。	・歌詞の表す様子や気持ちを想像しながら歌う学習に進んで取り組もうとしている。（関心・意欲・態度②）<ワークシート・表情観察・演奏聴取>
	2	○歌詞の表す様子や気持ちを想像し、どのように歌いたいのか考える。 ・それぞれの歌詞に着目し、どのような雰囲気がするかを考える。 ・季節ごとにグループに分かれ、どのような感じで歌いたいのか、強弱・速度はどのようにするかをまとめる。	・歌詞の表す様子や気持ちを想像して、発音や表現を工夫し、どのように歌うかについて思いをもっている。（音楽表現の創意工夫）<ワークシート・表情観察・演奏聴取>
	3	○歌詞の表す様子や気持ちに合う表現の仕方を工夫し、表情豊かに歌う。	・歌詞の表す様子や気持ちに合った表現で歌っている。

本時	<ul style="list-style-type: none"> ・季節ごとにグループに分かれ、自分なりに考えた歌詞から感じ取れる雰囲気話し合い、それに合わせた発音・声の出し方などの歌い方をまとめる。 ・工夫した歌を互いに聴き合い、グループごとの工夫を意識しながら通して歌う。 	(音楽表現の技能②) <ワークシート・表情観察・演奏聴取>
----	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------

6 本時の学習 (7/7)

(1) 本時の目標

○歌詞の表す様子や気持ちに合った表現の仕方を工夫し、表情豊かに歌う。

(2) 展開

学習内容と学習活動	○教師のかかわり ◆評価規準<評価方法>
1 音楽に合わせて体を動かす。 ・「ゆかいにあるけば」に合わせて、歌う前の体の準備をする。 2 「夕日が背中を押してくる」を歌う。 3 本時のめあてを確認する。	○心を開放して表現することができるように、雰囲気づくりを行う。 ○息をたくさん吸ったり、声を出したりして、歌う準備が整うようにする。 ○歌詞の内容から、場面の様子を想像して、気持ちを込めて歌うことができるように声をかける。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 「はる なつ あき ふゆ」のようすをおもいうかべてうたおう。 </div>	
4 季節ごとにグループに分かれ、自分なりに考えた歌詞から感じ取れる雰囲気話し合い、歌う。 ・ふわり…やさしく ・ざぶんと…元気に ・ちょろり…かわいらしく ・つめたい…さびしい感じ など	○前時に一人一人が考えた、歌詞から感じ取れる雰囲気や、表現の工夫について思い出せるように声をかけ、グループの全員が考えを話せるように励ます。 ○言葉だけでなく、体中で「こんな感じ」と表してもよいことを伝える。ただし、歌がおろそかにならないように声をかける。 ○なかなか考えがまとまらないグループは、それぞれの児童のワークシートを見ながら、みんなの考えを反映してグループとしての表現にできるよう助言する。 ○話し合うだけでなく、歌いながら自分たちの表現を確かめられるように声をかけていく。はじめの音だけ鍵盤ハーモニカで合わせてから歌うようにする。 ○聞いている人に伝わる表現で歌うことを目指せるよう声をかけ、グループ内や同じ季節を歌うグループごとに聴き合い、発音や声の出し方の工夫につながるようにする。
5 グループごとに発表する。	○発表前にどのような雰囲気を表したいのか、そのため工夫したところはどこなのかを話すようにし、ポイントを押さえて発表が聴けるようにする。 ○発表を聴いてどのような雰囲気が伝わってきたかも発表させ、いろいろな感じ方があることも共有していく。 ○グループごとに工夫したところや、発表を聴いて感じたことを掲示し、視覚的にも捉えられるようにする。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> ◆歌詞の表す様子や気持ちに合った表現で歌っている。 (音楽表現の技能②) <ワークシート・表情観察・演奏聴取> </div>
6 全員で4つの季節をつなげて歌う。	○グループごとの発表や、自分なりに考えた表現を意識しながら歌うことができるようにする。 ○つなげて歌うことで、雰囲気の違いを感じ取ることができるように声をかける。

ようすをおもいうかべてうたおう

「はる なつ あき ふゆ」

グループ

かし から、どんなようすがおもいうかぶでしょう。かし をよんで、
・「〇〇なかんじ」 ・おもいうかぶいろ ・おもいうかぶおと ・こんなきもち
どんなことばでもいいのでかいて、うたってみましょう！

1ばんは()かんじなので、
つよさは()、はやさは()
で、うたいたいです。

はるの
みち

ちようちよが
あいらじ

わたげが
ふわり

たんぽぽ
ゆれる

ようすをおもいうかべてうたおう

「はる なつ あき ふゆ」

グループ

かし から、どんなようすがおもいうかぶでしょう。かし をよんで、
・「〇〇なかんじ」 ・おもいうかぶいろ ・おもいうかぶおと ・こんなきもち
どんなことばでもいいのでかいて、うたってみましょう！

2ばんは()かんじなので、
つよさは()、はやさは()
で、うたいたいです。

なつ()
の()
うみ()

たい()
よう()
りゅう()
きゅう()
きゅう()

きゅう()
きゅう()
きゅう()
も()
ぐ()
る()

お()
お()
き()
な()
く()
じ()
ら()

ようすをおもいうかべてうたおう

「はる なつ あき ふゆ」

グループ

かし から、どんなようすがおもいうかぶでしょう。かし をよんで、
・「〇〇なかんじ」 ・おもいうかぶいろ ・おもいうかぶおと ・こんなきもち
どんなことばでもいいのでかいて、うたってみましょう！

3ばんは()かんじなので、
つよさは()、はやさは()
で、うたいたいです。

あきの
もり

いそいで
おでかけ

どんぐり
かかえ

こりすが
ちよろり

ようすをおもいうかべてうたおう

「はる なつ あき ふゆ」

グループ

かし から、どんなようすがおもいうかぶでしょう。かし をよんで、
・「〇〇なかんじ」 ・おもいうかぶいろ ・おもいうかぶおと ・こんなきもち
どんなことばでもいいのでかいて、うたってみましょう！

4ばんは()かんじなので、
つよさは()、はやさは()
で、うたいたいです。

ふゆの
よる

きたかぜ

つめたい

おそらで

ひかる

ちいさな

ほしが